
真実の世界はどこに

マイノリティーちゃん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真実の世界はどこに

【Nコード】

N9024S

【作者名】

マイノリティーちゃん

【あらすじ】

とある高校生が怖い夢を立て続けに見るようになる。

最初はなんとも思っていなかったが、その夢が今度は正夢になっていき……

連鎖の始まり（前書き）

ここをブログと勘違いはしていません。

中途半端なところで切ってしまいすいません。

連鎖の始まり

気が付くと映画館にいた。

そこは俺がよく行く映画館の八番スクリーンである。

年に70本程の映画をこの映画館で見るので、この事はアルバイト並に熟知している。

だから、すぐに八番スクリーンだという事がすぐに分かった。

俺はスクリーンから一番遠く、入り口に一番近い席に座っていた。館内の右後ろの方である。

辺りを見回した時に、俺以外に誰もいないことに気が付いた。

何故自分がここにいるのかの経緯をどうしても思い出せない。

スクリーンには何も映っておらず、小さく明かりがついていて少し不気味である。

薄暗くて誰もいない映画館がこんなに不気味だったとは。

訳が分からないので、帰ろうと席を立ち上がった瞬間照明が消えた。照明が消えてすぐにスクリーンにスノーノイズが「ざぁー」という音と共に映り始めた。

スノーノイズとは、テレビで放送されていないチャンネルをつける白い点が多数ランダムにポツポツと現れるあれである。別名砂あらし。

なぜ映画館でスノーノイズ？と不思議に思いながら五秒くらいスクリーンを見ていると、黒い文字がスクリーンのスノーノイズの中に浮かび上がってきた。でもなんて書いてあるか黒い文字が薄くスノーノイズが黒い文字にかぶって読めない。前の列の席の背もたれに

両手をかけて少し身を乗り出し、目を凝らして黒い文字を読もうとするが、やはり読めない。諦めて勢いよく席に座った。

視界の右側に違和感、というか自分の右隣の席に何かを感じたので、ふと右を向くと知らない男性が俺を数センチの距離でガン見していたのである。その男性の瞳孔は開いており、不動で俺を見つめていた。

あまりの恐怖にうわああと叫び声をあげた。

その叫び声で目が覚めた。

「なんだ夢か・・・」

ほっとしたのか安堵の声を漏らしてしまった。

しかし、不気味だった。あの怖さは実際に体感した者にしか分からないかもしれないが。

俺の名前は荏原俊之。

県立高校に通う極普通の高校生である。

なぜ今日このブログを開設したかという点、先ほども述べたようにものすごい怖い夢を見たからだ。

最近立て続けに怖い夢を見るので、その夢を忘れないうちにここに記しておこうと思って。

これから怖い夢を見たら書いていこうと思っています。
よろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9024s/>

真実の世界はどこに

2011年11月17日04時07分発行